

講義コード Course code	021016102
講義名 Course title(Japanese)	比較文化論 A
英文講義名 Course title (English)	Comparative Culture A
(副題) Course subtitle	
開講責任部署	
講義開講時期 Semester(s)	前期
講義区分 Type	講義
単位数 Credit hour(s)	2
時間 Total hours	0.00
代表曜日 Day	月曜日
時限 Period	2 時限
担当教員 Lecturer(s)	

職種（専任教員・非常勤教員） Position (Full-time/Part-time)	担当教員名 Lecturer(s)	実務経験の有無 Hands-on experience	所属学部 Department
専任教員	齋藤 正憲		発達科学科心理学専攻

授業の内容（主題） Course description <p>パンを焼く乾燥アジアとご飯を炊く湿潤アジアでは、自ずと生活様式が異なり、社会組織、ひいては家族の在り方まで大きく異なってくる。かくして、地域性を色濃く残しつつ、世界各地にさまざまな文化が醸成されてきたといえる。そのような伝統文化は、近代以降、グローバル化の荒波に晒されて、劇的な変容を強いられてもいる。しかし、それでもなお温存される「古層」があるとすれば、それこそがまさに「文化の本質」といえるであろう。しかし、個別の地域研究に頼ってばかりでは、そのような「古層」はなかなか見えてこない。比較文化論の観点から、乾燥と湿潤の「境界」にこそ、目を凝らすべきなのだ。</p> <p>本講義では、主としてアジアの諸文化を検討の俎上に載せ、乾燥と湿潤がせめぎ合う「境界」に着目しつつ、アジア文化論を構想する。結果として、受講生のみなさんの裡に確固たる「アジア観」が芽生えるのなら、これに勝る喜びはないと考えている。</p>

到達目標 Course objectives <ol style="list-style-type: none"> 1. アジア、とりわけ東アジア、東南アジア、南アジアの歴史的・地理的概要を把握し、かつ、比較文化論の観点から眺めることができる。 2. 独自の「アジア観」を自らの裡に構想し、目まぐるしく変動する国際社会における指針を獲得する。 3. 比較文化をめぐるさまざまな学説・方法論に触れ、それを活かした探究へとつなげる。
--

授業計画表 Course plan

回 Class sessions	内容 Topics	予習・復習 Expected work outside of class
第1回	導入①: アジアを俯瞰する視座 和辻哲郎、丸山真男、梅棹忠夫、松田壽男、中根千枝、松本健一、内田樹といった先賢の学説に触れることで、アジアを俯瞰する基礎的な力を涵養する。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第2回	導入②: 「アジア的」ということ 吉本隆明が著した『アジア的ということ』の内容を紹介するので、考察し、比較文化論の基本的な視座をさらに豊かにしてほしい。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第3回	湿潤アジア①: 乾燥と湿潤を跨ぐ中国 中国の歴史と文化を検討する。中国4000年の歴史からは、ある傾向を読み取ることができるのである。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第4回	湿潤アジア②: 韓国は「洪水型」か? 韓国の文化を扱いながら、丸山真男による洪水型/雨漏り型の学説について考えたい。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第5回	湿潤アジア③: 台湾アイデンティティ 台湾の歴史と文化を概観する。とくに、本省人/外省人/原住民という民族構成が反映された複雑なアイデンティティについて、みなさんと考察してみたい。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第6回	湿潤アジア④: 東南アジア大陸部 中根千枝によって「A群」に分類された東南アジア大陸部を扱う。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第7回	湿潤アジア⑤: 東南アジア島嶼部 「海の大国」インドネシアを中心に、島嶼部東南アジアについて考えたい。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第8回	境界のアジア①: 混沌のインドで想うこと インドの歴史と文化について考察する。中東(エジプト)や日本と比較することで、インドの本質に迫りたい。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第9回	境界のアジア②: 黄金のベンガル バングラデシュの歴史と文化にして考察する。とりわけ工芸の面で、バングラデシュは境界の特色を湛えている。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第10回	辺境のアジア: ネパールとスリランカ ネパールおよびスリランカについて扱う。両国におけるフィールドワークの成果を紹介する。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第11回	中央アジア: 草原を駆けるトゥルク 広大なユーラシアを闊歩し、まさに東西アジアを繋げたトゥルクについて考えたい。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第12回	乾燥アジア①: イスラームの歴史 現在、唯一無二の存在感を示すイスラームについて、その歴史と文化を概観したい。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。

第13回	乾燥アジア②: 「アラブの春」のこと ジャスミン革命や9. 11、ISの暗躍など、激動のイスラーム情勢について、みなさんと一緒に考えてみたい。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第14回	宗教のアジア①: 呪術師のいる風景 アジア各地に温存される呪術について、フィールドワークの成果にもとづいて、紹介する。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第15回	宗教のアジア②: 世界宗教と民間信仰 アジアは、呪術のような民間信仰を温存しつつ、さまざまな世界宗教を取り入れてきた。両者の関係について触れ、アジアの構造理解に繋げたい。	講義内容全体を振り返り、独自のアジア観を思い描いてほしい。そのために、4時間以上の学修を求めたい。

授業計画コメント

Course outline

講義担当者は、エジプトを皮切りに、台湾、バングラデシュ、インドネシア、ネパール、インド、スリランカにおいて、フィールドワークを重ねてきた。さまざまなアジアで見聞きしたことを、受講生のみなさんと共有したいと考えている。

授業の進め方

Session plan

本講義は対面形式となる。くれぐれも、受講生のみなさんには、積極的な授業参加を求めたい。また、最終的にレポートを書いてもらう（テーマは自由）。そのためには、主体的に考察を行うことが大事になってくる。結果として何らかの「アジア観」がみなさんの裡に芽生えれば、それは、激しく変化する今後の社会を生きるうえで、重要な指針となってくれるものと期待している。

アクティブラーニング

Active learning

講義内での発言・討議に期待したい。また、受講生と相談のうえ、オフィスアワーを設定する予定なので、そちらも活用してもらいたい。

授業時間外の学修（予習・復習等）

Preparation and review outside classroom hours

レポート作成を意識して、自ら、主体的に考察を進めるための学修時間を確保してほしい。

教科書等

Textbooks and materials

	タイトル Title	著者名 Author(s)	出版社 Publisher	出版年 Year of Publication	価格 Price	ISBN
1						
2						
3						
4						
5						

(必ず購入すべきもの)

Materials required for sessions

特になし。

参考図書

Reference book(s)

齋藤正憲 2012 『土器づくりからみた3つのアジア：エジプト、台湾、バングラデシュ』，創成社。

齋藤正憲 2015 『境界の発見：土器とアジアとほんの少しの妄想と』，近代文藝社。

参考図書については、動画でも指示しているので、積極的に読んで欲しいと思う。

成績評価方法および評価基準

Evaluation criteria

	定期試験 Tests	授業内小試験 In-class quizzes	レポート・課題 Reports/Assignments	受講態度 Class Attitude
評価比率％ Evaluation ratio	0%	0%	80%	20%

成績評価の方法に関する注意点

Assessment criteria

興味を持ったアジア文化を一つ、ないしは複数取り上げて、レポートを書いていただく。内容は自由とする。是非、積極的・主体的に取り組んでほしい。

課題のフィードバック

Feedback

希望者には、可能な限り、レポートに対するコメントをフィードバックしたい。適宜、オフィスアワーをご活用いただきたい。

学生へのメッセージ（履修上の心得）

Message to students (class guidelines)

本講義では、ともかく、さまざまなアジアを話題にしたい。受講生のみなさんには、気軽に聴講してもらい、アジア観を醸成する第一歩としてもらいたい。しかし、興味を覚えたテーマがあれば、とことん突き詰めて考えてみてほしい。そのための援助を惜しむつもりはない。

科目のレベル、前提科目など

Level / Prerequisites

アジア文化に関する入門的な講座にしたいと考えている。どなたでも、受講可能である。

本講義で得られる基本情報は、以後の、さまざまな研究的授業の助けになると信じて疑わない。

キーワード

Keyword(s)

比較文化論， 比較文明論， 地域共創， SDGs

講義コード Course code	021016101
講義名 Course title(Japanese)	比較文化論 A
英文講義名 Course title (English)	Comparative Culture A
(副題) Course subtitle	
開講責任部署	
講義開講時期 Semester(s)	前期
講義区分 Type	講義
単位数 Credit hour(s)	2
時間 Total hours	0.00
代表曜日 Day	木曜日
時限 Period	1 時限
担当教員 Lecturer(s)	

職種（専任教員・非常勤教員） Position (Full-time/Part-time)	担当教員名 Lecturer(s)	実務経験の有無 Hands-on experience	所属学部 Department
専任教員	范 力		経営学科

授業の内容（主題） Course description <p>中国をはじめ国際社会、文化について学ぶことは、我々の視野を広めるばかりでなく、我々自身を、さらには日本という国をより良く理解することにもなる。世界を広く理解し、日本の置かれた立場を認識しておくことは、我々の社会をより一層活力のあるものにして行くためにも重要である。</p> <p>授業では、前期（A）後期（B）を通じ中国、韓国、インド、オーストラリア、アフリカ、欧米諸国などの特性及び日本との関係について学び、最終的には学生諸君とともに世界の中で日本が目指すべき将来の姿について考えたい。</p>
到達目標 Course objectives <p>各国の文化や社会についての理解を深めるとともに、異なった文化、社会に対する寛容な心を養うことができる。</p> <p>これらの文化、社会の日本にとっての重要性についての理解を深めることができる。</p> <p>ひるがえって、日本の文化や社会の特性についての理解を深めることができる。社会に出た際に、国際的関連性を理解して仕事に取り組める能力を養うことができる。</p> <p>期末レポートの執筆を通じて、自分自身で考える力を養うことができる。</p>
授業計画表 Course plan

回 Class sessi ons	内容 Topics	予習・復習 Expected work outside of class
第1回	オリエンテーション	配布プリントをもう一度読み通して、科目の内容を確認する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第2回	賢くなる方法とは――知識+アルファ	今週のキーワードは知恵、つまり知識+判断力である。このことを頭に入れながら習った内容を復習する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第3回	「小泉元総理に結婚相手を紹介したら、Sをやるよ！」	中国の思想をもって日本の現状を分析すれば、違いが見えてくるが、さて、君は復習していくうちに、見えてくるものは何かを整理する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第4回	「交流」という視点から見た日本と中国	日中関係を「交流」という視点からアプローチしてきた。さて、整理された五つの交流とは何かをもう一度復習しておく。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第5回	中国の近代化と日本の近代化	近代化していく中で、同じアジア同士なのに日本と中国は異なる道を選んだ。その違いを復習で再度確認する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第6回	アラスカ会談と米中の違い	米中の違いとは何かを復習の重点とする。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第7回	各国コロナ対処法比較	「民主主義がコロナに打ち勝つ」というテーマでディベート行う。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第8回	日本の新幹線と中国の「高铁」	マスコミと日中新幹線の「葛藤」とはなにかを振り返る。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第9回	各国トイレ比較	各国のトイレ比較を復習して思いついたこと等を記しておく。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第10回	東洋医学と西洋医学	東洋医学と西洋医学の異同を考える。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第11回	中国を正しく理解するために	スピーチをもう一度聴きながら、ポイントを確認する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第12回	日本は集団主義、中国は個人主義?	「KY」という表現から日本の集団主義を分析する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第13回	和食・中華とカルチャーショック	予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第14回	八卦（はっけ）――中国式の占いで君の悩みを占ってみよう	中国の伝統文化と占いの関係を再考する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第15回	まとめ、目的達成かチェック	シラバスに書かれた目標をどこまで達成できたかを振り返る。レポート作成には8時間以上を費やす。

授業計画コメント

Course outline

日中両国は近くて遠い。日中の異同を徹底的に調査、研究しながら、それぞれの文化を比較していく。

授業の進め方

Session plan

講義、プレゼン、グループディスカッション、動画鑑賞、ディベート、その他

アクティブラーニング

Active learning

履修生によるグループ学習はこの授業の一つの特徴である。したがって、能動的学習がつねに求められる。

授業時間外の学修（予習・復習等）

Preparation and review outside classroom hours

プレゼンがあるため、その準備（予習）や反省（復習）を心にかける。

教科書等

Textbooks and materials

	タイトル Title	著者名 Author(s)	出版社 Publisher	出版年 Year of Publication	価格 Price	ISBN
1						
2						
3						
4						
5						

（必ず購入すべきもの）

Materials required for sessions

なし

参考図書

Reference book(s)

范力編著『民主主義を相対化する中国』時潮社、2016年

成績評価方法および評価基準

Evaluation criteria

	定期試験 Tests	授業内小試験 In-class quizzes	レポート・課題 Reports/Assignments	受講態度 Class Attitude
評価比率％ Evaluation ratio	0%	0%	70%	30%

成績評価の方法に関する注意点

Assessment criteria

レポートや授業への貢献度などによる総合的に評価する。受講態度は授業時の報告やグループメンバー同士のディスカッション等を含む。

課題のフィードバック

Feedback

毎週の授業後の振り返りを心にかける

学生へのメッセージ（履修上の心得）

Message to students (class guidelines)

できるだけ講義対象地域についての解説書や新聞を読み、質問及び意見を準備して来て欲しい。

科目のレベル、前提科目など

Level / Prerequisites

なし

キーワード

Keyword(s)

学習・能力・視野・友人